

大佛次郎研究会 第42回研究発表会

【テーマ】

語り継がれてきた生麦事件と大佛次郎

2026年
5月23日(土)

開演：午後1時30分～



会場：
神奈川近代文学館ホール

◀大佛次郎（おさらぎじろう、1897-1973）
1963年（昭和38）頃

【報告1】

語り継がれてきた生麦事件 ～歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり～

齋藤 美枝（さいとう みえ）鶴見歴史の会会員



生麦事件の目撃者黒川荘三翁は、リチャードソン追悼と事件の風化を防ぐために旧蹟碑を建立した。その遺志は、『生麦事件碑顕彰会』と『生麦事件参考館』によって語り継がれてきた。その歩みをたどりながら、生麦の人たちと共に現在取り組んでいる『歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり』について紹介する。

放送大学大学院修士課程修了。鶴見歴史の会会員、大本山總持寺布教教化部史料編纂室委員、生麦事件参考館サポーター。黒川荘三手記『千草』解説刊行に参画。著書『鶴見花月園秘話 東洋一の遊園地を創った平岡廣高』『鶴見總持寺物語』『鶴見ゆかりの人物誌』

【報告2】

生麦事件グローバルスタディーズ ～世界がとらえた生麦事件～

KTa☆brasil (KEITA BRASIL) (ケイタ ブラジル) 打楽器奏者、寄稿者、写真家



世界がとらえた生麦事件とは？ 日本は生麦事件の深刻さを捉えているのか？ 明治薩長閥や戦後の教育での古い解釈、間違い、誤解、事実とは？ 英国の機密情報開示、Oxford 大学をはじめ、世界各地の大学で生麦事件の情報もフェアに更新・再検証が進んだ。当の日本は？ 地球規模的に紛争が増加している今こそ、伏せられていた内外の資料・情報・視点から、生麦事件の驚きの事実と江戸末期からの近代史解釈を再検証、更新する意義を紹介したい。

代々生麦在住。Newsweek 誌「世界が尊敬する日本人100」選出。打楽器奏者、寄稿者、写真家。プレゼンター。各国政府・国際企業任務経歴。グローバルスタディーズ講師。ガイドブック「地球の歩き方 横浜市」執筆者。1997年よりブラジルで活動しリオデジャネイロの名門サンパチームの公認指導者。19世紀より世界各地で活動する家系で英国に親戚。幕末の蕃書調所・洋書調所の要職を担った「真下晩菴」の6世、島津氏にも遠縁。

【講演】

大佛次郎と生麦事件

～「鞍馬天狗敗れず」と生麦事件、「鞍馬天狗」の「生麦事件」から「天皇の世紀」の「生麦事件」へ～

内海 孝（うつみ たかし）大佛次郎研究会会員、東京外国語大学名誉教授



大佛次郎は『生麦事件』を主題とした作品を書く。1943年8月の『天狗倒し』と1945年6月以降連載の『鞍馬天狗敗れず』の作品である。戦後では単独の作品はない。だが『天皇の世紀』の「急流」の章で扱う。はたして、大佛はどのような立ち位置をしめすことになったのか。

大佛次郎関連の著作には、解説「大佛次郎と居留地の発見—なぜ横浜居留地を舞台に登場させたのか—」（『鞍馬天狗敗れず』未知谷、2009年）、寄稿「デベッカ夫妻の鎌倉—野尻清彦の鎌倉住みはじめ前後—」（『おさらぎ選書』第22集、2014年）など。

日 時：2026 年 5 月 23 日(土) 午後 1 時 30 分～4 時 35 分 (予定)

(開場 午後 1 時)

会 場：神奈川近代文学館ホール 横浜市中区山手町 110 (港の見える丘公園内)

- みなとみらい線「元町・中華街」駅（元町方面改札）下車、徒歩 10 分
(6 番出口からアメリカ山公園経由：エレベータあり、または 5 番出口から谷戸坂へ)
- バス路線「港の見える丘公園」下車、徒歩 3 分
神奈川中央交通⑩ 桜木町駅～保土ヶ谷駅東口
横浜市営バス②⑩ 山手駅～桜木町駅

入 場：先着 200 名様（資料代 500 円） 当日、会場へ直接お越し下さい

(プログラム内容に変更のある場合があります。予めご了承ください。)

主 催：大佛次郎研究会

共 催：大佛次郎記念館
(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)
<https://osaragijiro-museum.jp>

後 援：神奈川近代文学館
(公益財団法人 神奈川文学振興会)

お問い合わせ：大佛次郎記念館
TEL:045-622-5002
FAX:045-622-5071